

大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

みぞくいじんじゃ
溝咋神社



溝咋神社拝殿正面



馬場先入口より社殿を望む



拝殿・石の間・本殿を側面より見る



拝殿に付いた象形の木鼻

所在地： 茨木市五十鈴町 9-21
 最寄駅： JR 茨木駅・阪急茨木市駅から
 近鉄バス・水尾3丁目行
 「桑田町」下車、東に徒歩4分
 TEL： 072-634-8297
 問合先： 溝咋神社まで
 見学： 境内は自由です

田畑が開発され街が形成される様子は、景観から考えれば望ましくなく、市街地の発展から考えれば望ましいことである。茨木市中心市街地の東側、昭和後期に開発された住宅に挟まれた形で突如として松並木の路が一本現れる。そこは馬場先と呼ばれている溝咋神社の参道である。現在では保存樹林となっているが、それ故に残っているのではなく、神の通る道、信者が通る道として開発の波を潜り抜けて残っていると考える。

馬場先の入口には石造の鳥居と石碑が建っており、松並木は凡そ150m。終点には小さいながらも整然と並んだ溝咋神社の拝殿・本殿と幾つかの摂社・末社が佇む境内がある。境内は一目では小さく感じられるが、思った以上に大きい。敷地の入口に建つ朱塗りの鳥居は、白木造りの社殿群と対照的で、一際目に映える。

溝咋神社は延喜式にも記載されている式内社で、農業神であると言われている。元々上の宮と下の宮に分かれており、上の宮には溝咋耳・五十鈴媛が、下の宮には玉櫛媛が、別々の場所で祀られていた。溝咋神社は下の宮で、現在では上の宮に祀られていた神々は溝咋神社に合祀されている。因みに祀られていた五十鈴媛と玉櫛媛の名前はこの地区の街の名前「五十鈴町」「玉櫛」として現在でも呼び習わされている。

現在の拝殿・本殿は寛保2年(1742年)に両替商米屋喜兵衛或いは、殿村平右衛門と石崎喜兵衛の二人によって再建されたとされている。社殿は入母屋造り本瓦葺きの拝殿と切妻造り銅板葺きの本殿で構成されている。本殿の屋根は銅板で本瓦風に造られており、詳細に見なければ瓦葺きと見紛う。拝殿は平入り、本殿は妻入りとなっており、拝殿の正面に付けられた唐破風と千鳥破風が当該建物の特徴付けている。拝殿は漆喰塗の壁、本殿は板壁。拝殿には彫刻が施され、本殿には彫刻の様な装飾は見当たらない。細部の意匠は何処を採っても江戸中期から後期の様式漂う造りとなっている。(神保 勲)